

福知山市住民自治検討会議（第11回）概要報告

〔日 時〕平成30年10月26日（金）10:00～12:00

〔場 所〕市民交流プラザ 会議室4-1

〔出席者〕委員…8人、事務局…8人、傍聴者…4人

■開会

■意見交換

① 前回の振り返り（公民館の役割）の確認

【(第10回) まとめ】

『公民館の機能の中で特に人材育成や地域づくり（コミュニティセンター）の役割に重点をおき、新しい仕組みとして地域づくり組織を公民館が支えていく』

- ・ 地域公民館が、地域協議会の役割を担うのではなく、地区公民館が組織づくりを担っていく。
- ・ 地域づくり組織（さまざまな団体をまとめた組織）が、調整機能をもって、自治会をはじめとした地域を支えていく。
- ・ 地域公民館は中学校区単位のものであり、そこに地域づくり組織が加わるのは変になってしまう。
- ・ 中学校区単位での活動や社会教育機能を担っているのが、地域公民館だと思う。
- ・ 日新地域では、それぞれの地区公民館の代表がそろった運営協議会を地区公民館（コミセン）で実施している。それが、統括した地域づくり組織みたいなものになるのかもしれない。
- ・ それぞれの団体を横につなぐ組織として、地域協議会をつくる。その考え方を忘れてはいけない。

● 文言の定義

- ・ 地域公民館（中学校単位）＝コミセン
 - ・ 地区公民館（小学校単位）＝公民館
 - ・ 公民館分館（自治会単位）
-
- ・ 地区におけるコミュニティセンターとしての役割と、地域における包括的な協議会の役割を整理していかなければならない。
 - ・ 地区の組織は地区内で検討いただくということにし、その上で、地域公民館についても整理していきたい。
 - ・ 大きな組織体になったときに、地域公民館がどのように関わるのか、包括補助金が捻出されるときに、どのような立場にあるのかを考えなければならない。
 - ・ 地域づくり組織は、あらゆる活動の情報を集めて、効率的に地域活動が運営されるようするべきであり、そこに公民館が抜けることはないと思われる。連絡調整をする機能ももともと持っている。

- ・ 将来的に中学校区単位の総括的な組織が必要になったときには、コミセンが関係するのだと思う。

② 組織規模について

- ・ 組織作りについて地域毎に温度差や進度には差がある。
- ・ 中学校単位という方向付けはあるものの、先進的に取り組める地域から進め、引っ張っていってもらいたい。
- ・ コミセン単位は今後、必要になるというのは方向付けとしては望ましい。

③ 人的支援について【資料2、3】

- ・ 一定期間が過ぎたところで、コミセンに包括補助金を支出するなど、福知山の方向性は必要。
- ・ 自治会が消滅の危機にあるところを、まちづくり協議会として救ってあげて欲しい。

④ 財政支援について【資料4】

- ・ 再編するものについては、明確にしておかなければならない。
- ・ 一括して地域協議会にお金を支払うイメージであるが、減額にならないように。
- ・ 人口（世帯数）に対して、お金を出すなら分かる。面積割は疑問。
- ・ 人口数が少ないところは面積でも考慮をしましょうというもの考える。
- ・ 結局は、人件費に費用がかかるのではないか？
- ・ 現在の自治会長個人報酬でなく、今後は、自治会の団体の活動費として捻出し、個々の手当をどうするかは、その団体に決めればよい。
- ・ 共助に対する報酬がどのようなものか明確でない。ボランティアでしているものがあったり、有償でやっているものがあったり。地域によって様々で一本化するの難しいとも感じる。

【まとめ】

『資料2、3、4の大まかなイメージ図（流れ）については了承。細かい部分について整理が必要』